

医療の質、安全性示す

病院の実力

*大阪編

て担当する職員の数や示した。多くが看護師を一人、専従者としている。調査した各病院は、専従者以外に医師や薬剤師ら他職種にまたがる対策チームを組んでいる。「100床当たり週実働時間」は、院内感染対策チ

ームの全メンバーの1週間の活動時間をベッド数1000床当りに換算したものの、体制の充実度を推し量る一つの指標となる。「調査対象手術」は、厚生労働省が各病院の院内感染の状況について報告を集める「院内感染対策サーベイ

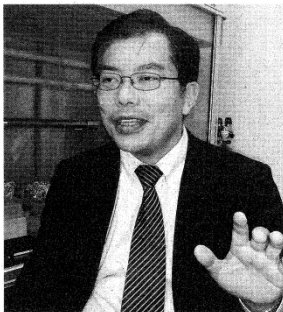
ランス事業」に参加している調査対象の病院が、胃、結腸、直腸などのうち何種類の手術で調査を行い、報告しているかを数字で示した。チーム判定は、手術時に起きる感染について、対策チームが最終判定を担っている施設に○印を記した。手術に直接携わった医師ら当事者が行うより、客観性が保てると考えられる。

院内感染対策

今回は「院内感染対策」をとり上げた。病院の実力は全国の医療機関を対象にアンケートを行って結果をまとめており、診療実績をテーマにすることが多い。個別の疾病や診療科ではなく、院内感染対策をとり上げるのは今回が初めてだ。

院内感染対策は、普段患者として意識しない分野だが、命にかかわる問題だけに、各病院の取り組みは医療の質や安全性のレベルを知る重要な情報といえる。今回は、院内感染対策の体制を調べた。「一覧表のうち「専従者」は、院内感染対策に専従し

早期に発見、重症化防ぐ



浮村聡 大阪医大病院感染対策室長

院内感染対策を中心に、細菌やウイルスの感染対策全般について、大阪医大病院（高槻市）の浮村聡・感染対策室長に聞いた。

「院内感染を引き起こすウイルスや細菌にほとんどなもがあるかインフルエンザウイルス、風疹や麻疹（はしか）ウイルス、結核菌、食中毒

の原因となるノロウイルスやMRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）など様々です。健康な人が感染しても無症状だったり、やがて治つてしまいますが、病院内では免疫力が落ちた人が多いので、感染すると重症化しやすく、深刻な事態を引き起こします。

「感染患者からとれくらい離れば大丈夫か一概に言えません。インフルエンザのような「飛沫感染」は、くしゃみやせきが届く範囲の2メートル以上離れたらあまり心配ないですが、結核や麻疹のような空気感染」では、細菌やウイルスが空気中に漂い、離れた場所でも感染します。ノロウイルスのように、感染者が触ったドアノブなどを非感染者が触って広がる「接触感染」もあります。

「院内感染対策の基本は、ひとりで感染させないことは困難です。大切なのは感染を広げないことです。細菌やウイルスの種類によって対応が異なりますが、感染患者を早期発見し、必要に応じて別室などで隔離し、感染者の排泄物や嘔吐物周辺の消毒、医療従事者が病原体を広げないよう、手洗い、マスク着用の徹底

病院の実力「院内感染対策」

医療機関別2013年時点の実績（読売新聞調べ）

医療機関名	専従者	100床当たり週実働時間	調査対象手術	チーム判定
みどりヶ丘	1	18	46	○
箕面市立	1	26	11	○
小松	0	24	14	
大阪厚生年金	1	24	5	
国・大阪南	1	23	1	○
関西医大枚方	2	22	1	
大阪医大	1	21	1	○
東大津市立	1	20	10	
大阪市立十三市民	1	20	3	○
星ヶ丘厚生年金	1	19	2	○
市立池田	1	16	10	○
N T T西日本大阪府中	1	16	16	○
府中	1	16	18	○
大阪鉄道	1	15	3	○
大阪労災	1	15	25	○
市立吹田市民	1	14	33	○
岸和田徳洲会	1	13	5	○
高槻赤十字	1	13	6	○
松下記念	1	13	16	○
大阪市立総合	1	13	8	○
桜橋渡辺	1	10	6	○
高槻	1	10	2	○
近畿大	1	9	12	○
府立成人病セ	1	8	15	○
東大阪市立総合	1	8	13	○
大阪市大	2	6	1	○
市立堺	1	3	7	○
北野	1	1	5	○
阪和第二泉北	0	0.1	0	○

「国」は国立病院機構。「セ」はセンター。調査は厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業の手術部位感染部門に参加している医療機関を対象に実施

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

2013年読売新聞